

（学年）第3年次、（教科・科目）福祉・生活支援技術

個別学習

（単元）身じたくの介護（衣類着脱の介助）

（本時のねらい）

介護者は、利用者のこれまでの暮らしの在り方を尊重しながら、自立を支援することが必要とされる。そのためには、利用者の心身の状態や状況について、ICFの視点に基づきアセスメントを行い、介護を提供しなくてはならないと考える。そこで今回は、利用者役と介護者役の双方を体験し、安全・安楽な基本的な技術を身に付け、利用者に応じた身じたくの支援を考えさせたい。また、利用者の状態や状況に応じた支援方法、プライバシーの保護や尊厳の保持に配慮した支援方法を工夫し、実践できる力を育成したい。

（ICT活用方法）

介護技術の実習では、自分の動きを動画を用いて確認することで、視覚的に動作の確認や事例検討がしやすい。一時停止機能や適切な声かけができていのかなどの確認もできる。従来は教員が撮影した動画を確認していたが、生徒の授業支援クラウドアプリにすぐに動画を貼り付けることができるので時短にもなり効率が上がった。また、教員が撮影した動画を一齐に見るより個別学習の時間を設けることで、より一人一人が目的を持ち学習に取り組むことができた。

（本時の展開）

時間	学習活動	指導事項	ICT活用方法
導入 5分	・本時の学習内容と目標を知る。	・本時の学習内容と目標を示す。	・電子黒板に本時の内容と目標を提示する。
展開 40分	<ul style="list-style-type: none"> ・着脱介護の方法やその根拠について考察する。 ・前時で撮影した動画を授業支援クラウドアプリのワークシート内に貼り付ける。 ・臥床対応の全介助を必要とする利用者を想定した着脱介護の実習の振り返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事例を提示する。 ・声かけの大切さを気づかせる。 ・授業支援クラウドアプリに動画を貼り付け、エビデンスについて考えさせる。 ・利用者の自立度、状態や状況によって支援方法が異なることに気づかせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の授業支援クラウドアプリのシートと、電子黒板のパワーポイントに事例を提示する。 ・授業支援クラウドアプリに前時で撮影した動画を各自貼り付けさせ、根拠について付箋機能を使って書かせる。 ・利用者の方一人一人によって、抱える問題は異なることを理解し、利用者の尊厳を尊重しながら、根拠に基づいて衣類着脱の介護について工夫する。自由に授業

217 福_生活支援技術_1_302 個別_身じたくの介護（衣類着脱の介助）

	<ul style="list-style-type: none"> ・片麻痺があり立位が可能な利用者を想定した着脱介護の実習の振り返りを行う。 ・気づいた内容を授業支援クラウドアプリに記入させる。 ・他の人が考えた介護方法や根拠について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりに寄り添い、利用者のできる所を奪ってしまわない「介助」について気づかせる。 ・全員の授業支援クラウドアプリを提示し、何人かの生徒を指名する。 	<p>支援クラウドアプリで付箋機能などを用いて自由にワークシートを完成させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板に発表者の画面を提示する。発表時には、根拠を添えて発表を行う。
<p>まとめ 5分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の振り返りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の振り返りとともに、自立を支援する衣類着脱には利用者の状況や状態を知り一人ひとりに寄り添った介助ができることを伝え、まとめとする。 	

(授業の様子)



生徒の様子



投影方法

(生徒の反応と課題、改善を要する点)

一人一人の作業では、時間内集中して取り組むことができた。また、自由に付箋が貼れることで根拠としての自分の考えを書き留めておくことができた。視覚的教材を自由に視聴することができることで、少ない作業時間でも発想を展開させることができた。今後の課題としては、実技の例を動画で提示したいと考える。